

2024 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|--|----------------------|---------------------------------|----------------------------------|---|---------------|
| 学 科 | 視能訓練士学科3年制 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科 目 名 | 生理光学Ⅲ | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (2) 時間(単位) |
| 対 象 学 年 | 2年 | 学 期 | 前期 月曜1限 | 教室名 | 1002教室・7階実習室 |
| 担 当 教 員 | 中西 令子 | | | | |
| 実務経験と その関連資格 | 視能訓練士として眼科一般検査に従事した。 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| 屈折検査である検影法、クロスシリンダーによる乱視矯正検査の原理・手技について学び習得します。また屈折矯正方法にも様々な方法があり、その全ての方法について学びます。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 学期末定期試験(100点満点)の80% 平常点(授業内における小テスト)20% | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 視能学第3版 理解を深めよう視力検査屈折検査 図解眼科検査法 屈折異常とその矯正改定第7版 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 毎時間の復習をして授業に出席して下さい。小テストと記載している授業では小テストを実施します。 | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 検影法を習得することは現場において有利となります。またクロスシリンダー法の理論をしっかり理解し、1年次に学んだ乱視表とクロスシリンダー法を患者の状態に応じて使い分けができるように頑張らしましょう。 | | | | | |
| 授業の 方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第 1 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 検影法の手技について説明できる | 屈折異常とその矯正 生理光学Ⅱのノート | 検影法の理論・特徴・手技の復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 検影法の理論・特徴・手技について | | | |
| 第 2 回 | 授業を 通じての 到達目標 | コンタクトレンズの分類について述べるができる | 視能学第3版 屈折異常とその矯正 | コンタクトレンズの分類について復 習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 小テスト 小児への視力検査 コンタクトレンズの基礎 | | | |
| 第 3 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 眼鏡レンズの光学的特徴について述べるができる | 視能学第3版 屈折異常とその矯正 | 眼鏡レンズの光学的特徴について 復習 レンズメーター測定法について復 習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 小テスト 眼鏡レンズの基礎 | | | |
| 第 4 回 | 授業を 通じての 到達目標 | 遠近両用レンズの構造を理解できる | 理解を深めよう視力 検査屈折検査 屈折異常とその矯正 | 遠近両用レンズについて復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 遠近両用レンズの特徴 | | | |
| 第 5 回 | 授業を 通じての 到達目標 | Prenticeの法則を用いた計算ができる | 視能学第3版 | Prenticeの計算方法について復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 小テスト Prenticeの法則について | | | |

| 授業の方法 | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|-------------|--|----------------------------|----------------------------|
| 第6回 | 授業を通じての到達目標 | 眼鏡の眼に対する矯正効果を用いた計算ができる | 視能学第2版 | 屈折矯正効果の計算について復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 小テスト 屈折矯正原理、眼鏡の眼に対する矯正効果について | | |
| 第7回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折矯正手術の種類について述べるができる | 屈折異常とその矯正 | 屈折矯正手術について復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 小テスト 屈折矯正手術について | | |
| 第8回 | 授業を通じての到達目標 | 屈折矯正の経過を網膜図で記載することができる | 1年次の配布プリント 図解眼科検査法 | 網膜図の復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 小テスト 1年次の復習 (スタームのコノイド図・レンズ式・スコア図・明視域、乱視表) | | |
| 第9回 | 授業を通じての到達目標 | クロスシリンダーを用いた乱視の検出までの手順を述べるができる | 図解眼科検査法 理解を深めよう視力検査屈折検査 | クロスシリンダーを用いた手順(乱視の検出まで)の復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 小テスト 屈折矯正検査法(クロスシリンダー)の原理・手技の乱視の検出まで | | |
| 第10回 | 授業を通じての到達目標 | クロスシリンダーを用いた手順を全て述べるができる | 図解眼科検査法 理解を深めよう視力検査屈折検査 | クロスシリンダーを用いた手順の復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 小テスト 屈折矯正検査法(クロスシリンダー)の実際の使い方 近見視力検査 | | |
| 第11回 | 授業を通じての到達目標 | クロスシリンダーを用いた屈折矯正を教科書を見ながらできる | 理解を深めよう視力検査屈折検査 図解眼科検査法 | 実施した検査についてレポートを書いておくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 屈折矯正、レンズメーター、近見視力① | | |
| 第12回 | 授業を通じての到達目標 | クロスシリンダーを用いた屈折矯正を教科書を見ながらできる | 理解を深めよう視力検査屈折検査 図解眼科検査法 | 実施した検査についてレポートを書いておくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 屈折矯正、レンズメーター、近見視力② | | |
| 第13回 | 授業を通じての到達目標 | クロスシリンダーを用いた屈折矯正ができる | 理解を深めよう視力検査屈折検査 図解眼科検査法 | 実施した検査についてレポートを書いておくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 屈折矯正、レンズメーター、近見視力③ | | |
| 第14回 | 授業を通じての到達目標 | クロスシリンダーを用いた屈折矯正ができる | 理解を深めよう視力検査屈折検査 図解眼科検査法 | 実施した検査についてレポートを書いておくこと |
| | 各コマにおける授業予定 | 屈折矯正、レンズメーター、近見視力④ | | |
| 第15回 | 授業を通じての到達目標 | 履修範囲の内容で理解できていない部分に気づくことができる | 特になし | 総復習 |
| | 各コマにおける授業予定 | 総復習 | | |